

2015年11月30日

報道関係者各位

飯田橋駅中央地区再開発準備組合
野村不動産株式会社

飯田橋駅中央地区再開発事業 本格始動 ～事業協力者に野村不動産選定～

飯田橋駅中央地区再開発準備組合(2015年9月設立、理事長:穂保 国雄)は、千代田区飯田橋四丁目及び富士見二丁目の一部他(以下「飯田橋駅中央地区」)の再開発計画につき、事業協力者として野村不動産株式会社(本社:東京都新宿区/取締役社長:宮嶋 誠一)を選定し、具体的な計画策定に着手したことをお知らせいたします。

「飯田橋駅中央地区」は、開発のすすむ飯田橋駅西口地区とアイガーデンエリアをつなぐ重要な地区です。また、JR 飯田橋駅東口と、目白通りが交差する大変人通りの多い立地であるにも関わらず、広場空間がないことがまちの課題として長年取り上げられており、まちづくりの気運が高まっている地区でもあります。

「飯田橋・富士見地域まちづくりガイドライン(案)」をはじめとする上位計画に習い、まちづくりの目標を『駅前広場一体型複合都市拠点の形成』とし、下記項目を重視し、計画を行ってまいります。

1. 交通機能整備

合理的な道路整備、駅前広場整備をはじめとする安全な歩行空間の拡充によって、地下と地上を積極的につなぎ、みどりと賑わいのネットワークを強化します。同時に、目白通りから奥まった住宅棟周辺は、やすらぎを大切にした屋外空間を創出します。

2. まちづくり

駅前広場・ゆとりある歩道状空地などを整備するとともに、これに面して店舗ゾーンを計画します。ゆとりある屋外空間と合わせて店舗を整備することで、立体的に賑わいの広がる風景を創出します。

3. 大災害時対策

東西線の改札口と JR 駅東口をつなぐ通路に面して立体的な駅前広場『駅前プラザ』を整備することで、周辺の歩行者ネットワークの拠点となる広場にするとともに、大災害時には、帰宅困難者の一時待機スペースとしても機能する広場とします。

